

経営協議会の学外委員からの意見を大学運営に活用した主な取組事例

第1回経営協議会（平成22年4月30日開催）

①入学辞退者を増やさないための方策について

学外委員からの意見	大学の取組事例
入学辞退者数が多数であることについて、その理由（他大学を選んだ理由等）を調査する必要がある。	過去2年（平成21、22年度）の合格者を対象に、辞退理由及び他大学を選択した理由についての調査を実施した。
入学辞退については、辞退を申し出た段階で、窓口で調査すべきではないか。	窓口での調査よりアンケート形式による調査を早急に進め、分析を行った。 また、辞退者を増やさないために、合格者に対してコース紹介のパンフレットを送付する等、定期的に大学情報を発信した。

②地域の特性を教育に活かした取り組みについて

学外委員からの意見	大学の取組事例
地域の特性を教育に活かす取り組みが必要ではないか。	学部では「地域社会研究」、「阿波学」を、大学院修士課程では「四国遍路と地域文化」の各授業科目を開設しているが、平成22年度から、大石副学長を代表とした教育研究プロジェクト「遍路分化を活かした教師力育成」を立ち上げ、学内予算を措置し、取り組みを支援した。

③進路状況について

学外委員からの意見	大学の取組事例
これまでの「教員養成系大学における教員採用状況は厳しい」というイメージを払拭し、改善する必要がある。	学部における入試広報用資料「学部案内（2011）」では、「教員就職率全国第5位」であることを全面的にアピールするとともに、就職支援の充実、卒業生（教員）によるメッセージの掲載により、本学の就職支援状況等を周知している。
鳴門教育大学における良好な教員採用の実績を広く周知すべきである。	

第2回経営協議会（平成22年6月8日開催）

①大学の広報等について

学外委員からの意見	大学の取組事例
大学のブランディングを検討の上、大学の活動をより積極的に情報発信すべきである。	本学の特色（強み：就職支援の充実、長期履修学生支援、教職大学院、小学校英語教育、予防教育等の先導的な取り組み等）を整理・分析した上で、積極的な広報活動を行った。 また、平成22年3月卒業生の教員就職率が全国第1位となったことを受け、ウェブページによる学長メッセージの公表、全国紙及び教育専門誌への広告掲載等を積極的に実施した。